

厳選!

これが 最先端医療システム

目まぐるしいほどに進化を遂げる医療の分野。
がん治療や先進治療などの技術面だけではなく、患者様の利便性や簡便性、
しいては医院の増患等計り知れないメリットをもたらす
最先端医療システムが続々誕生している。



AIを活用したがん治療や、オンライン遠隔診療など
「医療・介護革命」を進めるための自民党最終報告

どこにいても質の高い医療
介護サービスを提供可能に

自由民主党の「経済構造改革に関する特命委員会」は、この2017年5月9日までに、医療・介護革命に関する最終報告書をまとめた。その内容として、医療・介護領域では、ICT（情報・通信に関する技術の総称）やAI（人工知能）、またはロボットや高度センサーなどの最先端技術を医院が装備

することで、日本国内のどこに住んでも、無医村等でも質の高い医療・介護サービスが受けられる環境を早急に整えることを提言した。

この最終報告書の医療・介護分野の提言の内容は、

(1) AIを活用したがん治療・難病治療の実現

(2) 遠隔医療の社会実装

(3) 革新的創薬の支援

(4) 医師が患者の病歴・薬歴を瞬時に把握できるデータ利用システムの構築

(5) 介護革命の実現

(6) 医療・介護革命の推進に向けた、「サンドボックス型特区制度」の活用

の6項目で構成されている。

中でもAIについては、がんの発症原因遺伝子を突き止めるゲノム解析に活用し、最も効果的な治療法の検索・提示の大幅なスピードアップを図ることなどが提案された。

ICTを活用した遠隔診療技術で自宅にいながらオンラインで医師の問診・診療を受けることや、ドローンでの処方薬配達を可能にする考えも示した。ビッグデータを活用した革新的創薬を実現するためにオールジャパンでのデータ活用基盤を整備。

全国規模での医療改革や
介護改革を目指すために

介護分野では、最先端の介護ロボットや見守りのための高度センサーの開発・標準装備化、AIの活用などで介護の効率を上げ、将来的な介護費用の軽減につなげる。

遠隔医療をはじめとする革新的診療や治療、最先端のロボットやセンサーを活用した近未来型介護の実証実験のために、新たな特区制度（サンドボックス型特区制度）を創設することにも言及した。サンドボックス型特区制度とは、自動車の自動走行やドローンといった革新的技術の実証実験をスムーズに行うため、その障壁にならぬ限り現行の法規制の一時停止、または手続を大幅に簡素化する仕組み。

最終報告は、こうした医療革命、介護革命が日本全国で実現するように、「2020年度までに報酬体系の見直しも含め、制度整備を進めていく」とした。この最終報告書は、政府が同年6月にまとめた新しい「日本再興戦略」に反映されている。

※ 出典 「経済構造改革戦略」(Cabinet) 1 = 経済構造改革に関する特命委員会 最終報告 II (4/28) 《自由民主党》